

チャペル通信

2013年 4月発行 78号

★福音 (GOOD NEWS) を 信じると どうなりますか その3

わたしわたしが あなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって 次のことです。
 キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに三日目によみがえられたこと、また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。

新約聖書 コリント人への手紙第一 15章 3～5節

2013年のチャペル通信は、福音 (GOOD NEWS) とは何か、信じるとどうなるか、を連載しています。日本では信心が 美德とされ、何を信じても結局行き着く先は先は同じ、入信したら戒律をまじめに守って努力することが信仰だと思われています。キリスト教もその代表的なものと思っていないか。 大いなる誤解です。

聖書が語る福音は、実にシンプルで、上記の聖書の内容です。

歴史上確かに存在したイエス・キリストをそのようなお方と信じ信頼し続けること だけで救われるのがキリスト教です。救われるために私たち人間側のわざは0%で 100%神様の側からの GIFT(贈り物)を受け取るだけなのです。

信じた私たちは①イエス・キリストとひとつとされる ②新生(新しく生まれる)ことを前回学びました。今月は③養子縁組??? ということを聖書からみていきます。どうぞお読みください。牧師 小岩井信

お知らせ

11月10日(日)の礼拝は丸山園子先生が はじめてのかたにも 分かりやすい聖書のお話をしてくださいます。

子母口キリスト教会は今年で創立58年の歴史があります。初代のノート・ヘルパー宣教師、島田満雄牧師に続き、二代目の丸山俊二牧師、(1976~1987在職)の娘である丸山園子先生が、なつかしい子母口教会で聖書のお話をしてくださいます。当時、同級生だったり、教会学校や学校の教え子だったりした方で丸山園子先生のお名前が懐かしいお方が地域におられるのでは・・・と早めにお知らせをさせていただきました。どうぞ、教会の礼拝はいつでも開かれています、この日も、今からお心に留めてくださる方があれば幸いです。

定期集会

- (日)礼拝と学び 10:30~12:10
- 教会学校 1:30~2:30
- 夕拝 19:30~
- (水)聖書の学びと祈祷会 19:30~
- (金)聖書の学びと祈祷会 10:00~

*私たちの教会は、プロテスタントの教会です。エホバの証人(ものみの塔)、統一協会、モルモン教 とは一切関係ありません。

〒213-0023 川崎市高津区子母口776

編集 日本同盟
 発行 基督教団 子母口キリスト教会
 牧師 小岩井信

e-mail: shibokuchi@church.jp

電話 044-766-0181 FAX 044-766-2157 <http://shibokuchi.church.jp/>

父なる神様 は どんな神様でしょうか。父子の関係で聖書にでてくる

有名な 放蕩息子(ほうとうしこ)の箇所をのせます。

ルカ 15 : 11 ~ 24

信じた人は、その瞬間(意識していなくても)

③神様の子とも とされる

★イエスさまはわたしたちに「われらの父なる神よ」と呼びかけるようにお命じになりました。神はキリストを通してわたしたちの父となってくださったのです。そしてそれは聖霊のお働きによるのでなくては、ありえないことでした。

あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊をうけたのです。

私たちは 御霊によって、「アバ、父」(おとうちゃん のような親しい言い方)と呼びます。 ローマ 8 : 15

そして、あなたがたは、子であるゆえに、神は「アバ父」と呼ぶ御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。

ガラテヤ 4 : 6

(1) 子どもであるので、相続人です

「ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子ならば、神による相続人です。」 ガラテヤ 4 : 7

「もし子どもであるなら、相続人でもあります。私たちがキリストと栄光をともに受けるために苦難をともにしているなら、私たちは神の相続人であり、キリストとの共同相続人であります。」

ローマ 8 : 17

(2) 子どもであるので訓練を受けます

「訓練と思って堪え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるのでしょうか。」

ヘブル 12 : 7

罪をおかしました

11 またこう話された。
12 「ある人に息子がふたりあった。弟が父に、「お父さん。私に財産の分け前を下ささい」と言った。それで父は、身代をふたりに分けてやった。
13 それから、幾日もたたぬうちに、弟は、何もかもまとめて遠い国に旅立った。そして、そこで放蕩して湯水のように財産を使つてしまった。
14 何もかも使い果たしたあとで、その国に大ききんが起こり、彼は食べるにも困り始めた。
15 それで、その国のある人のもとに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやつて、豚の世話させた。16 彼は豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいほどであったが、だれひとり彼に与えようとはしなかった。
17 しかし、我に返つたとき彼は、こう言った。「父のところには、パンのあり余つてゐる雇い人が大ぜいいるではないか。それなのに、私はここで、飢え死にしそうだ。」
18 立つて、父のところに行つて、こう言おう。「お父さん。私は天に対して罪を犯し、またあなたの前

19 もう私は、あなたの子と呼ばれる資格はありません。雇い人のひとりにしてください。」
20 こうして彼は立ち上がつて、自分の父のもとに行つた。ところが、まだ家までは遠かつたのに、父親は彼を見つけ、かわいそうに思い、走り寄つて彼を抱き、口づけした。
21 息子は言った。「お父さん。私は天に対して罪を犯し、またあなたの前(まへ)に罪を犯しました。もう私は、あなたの子と呼ばれる資格はありません。」
22 ところが父親は、しもべたちに言った。「急いで一番良い着物(きもの)を持って来て、この子に着せなさい。それから、手に指輪(ゆびわ)をはめさせ、足にくつをはかせなさい。」
23 そして肥えた子牛(こぶ)を引いて来てほぶりなさい。食べて祝(いわ)おうではないか。
24 この息子は、死んでいたので生き返り、いなくなつていたので見つかつたのだから。」

